

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	環境倫理	
科目基礎情報						
科目番号	15370		科目区分	一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教材等: プリント配布 参考書: 鳥越皓之『環境社会学』東京大学出版、2004					
担当教員	田中 純一					
到達目標						
<p>1. 減災社会の基本的考え方について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。</p> <p>2. 自然と人間との共生について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。</p> <p>3. 社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを身につける。</p>						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目1	減災社会の基本的考え方について理解を深めるとともに、自分自身のことばで正しく説明することができる。		減災社会の基本的考え方について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。		減災社会の基本的考え方について理解を深めることができず、自分自身のことばで説明することができない。	
到達目標項目2	自然と人間との共生について理解を深めるとともに、自分自身のことばで正しく説明することができる。		自然と人間との共生について理解を深めるとともに、自分自身のことばで説明することができる。		自然と人間との共生について理解を深めることができず、自分自身のことばで説明することができない。	
到達目標項目3	社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを正しく身につける。		社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを身につける。		社会的事象について自らのことばでコメントする基礎的スキルを身につけることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科学習目標 1 本科学習目標 3 創造工学プログラム C3 創造工学プログラム D2						
教育方法等						
概要	本講義では自然と人間との関係を、交通問題、野生生物との軋轢、災害といった具体的事例を題材に、自然と人間との関係に関する基本的知識を習得するとともに、問題解決に向けた多様なアプローチが存在することを理解することにより、科学的・客観的合理性だけでは解決困難な諸課題に向き合うための基礎的能力を身につける。					
授業の進め方・方法	事前事後学習など: 到達度目標の達成度を確認するため、適宜、演習課題を出す。 関連科目: 倫理, 現代社会, 歴史, 地理, 法と社会秩序					
注意点	<p>注意事項と学習上の助言: 指定した課題については事前に読んで内容を理解した上で授業に臨むこと。 小レポート等提出物については、仕様、提出期限などをしっかりと守ること(特に提出期限は厳守)。 講義時間内の入退、携帯電話等の使用、私語は厳しく対応する。</p> <p>評価方法・評価基準: 授業への参加及び意欲(グループディスカッション・プレゼン)(10%)小レポート及び提出物(20%) 中間試験(30%) 期末試験(40%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。</p>					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 環境問題とは何か	環境問題とは何か、説明できる		
		2週	環境問題の社会的アプローチ① 受益圏・受苦圏	受益圏・受苦圏について説明できる		
		3週	環境問題の社会的アプローチ② 生活環境主義	生活環境主義について説明できる		
		4週	人間中心主義VS人間非中心主義	人間中心主義VS人間非中心主義について説明できる		
		5週	世代間倫理	世代間倫理について説明できる		
		6週	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理について説明できる		
		7週	野生生物との共存	野生生物との共存について説明できる		
		8週	海は誰のものか	海は誰のものか、説明できる		
	4thQ	9週	交通問題から考える安全・安心なまちの条件	交通問題から考える安全・安心なまちの条件について説明できる		
		10週	自然災害と私たちの暮らし①	自然災害と私たちの暮らしについて説明できる		
		11週	自然災害と私たちの暮らし②	自然災害と私たちの暮らしについて説明できる		
		12週	災害の不等性とは	災害の不等性とは何か、説明できる		
		13週	災害ボランティアとは	災害ボランティアとはどのようなものか説明できる		
		14週	減災社会	減災社会について説明できる		
		15週	総括・まとめ	総括・まとめ		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3	

分野横断的能力			公民	人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3	
				国家間や国内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3	
				哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	4	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	4	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	4	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	4	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	4	
	地歴・公民	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4			
		現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4			
		社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4			
		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4			
		環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4			
	国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4				
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	
ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。				3		
ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。				3		
現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。				3		
現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。				3		
事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。				3		
複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。				3		
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3		
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3		
			日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3		
			ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3		
			学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3		
			市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3		
			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3		

				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				目指すべき方向性を示し、先に立つて行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	
				法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	3	
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	3	
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。				3		
クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。				3		
クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価してデザインすることができる。				3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0